

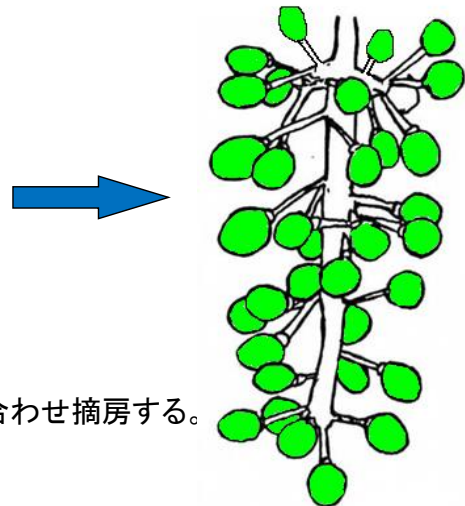
# 種なしピオーネ・巨峰・藤稔の予備摘粒(摘粒)講習会資料

平成26年6月  
果樹技術普及センター

## 1. 予備摘粒・・・果粒肥大と摘粒労力の削減に重要な管理！

- ①第1回目ジベレリン処理後、4～5日頃より行う。
- ②この時点で残す果粒数の目安は！

- ◆ピオーネで 軸長5.5cmにすると 35粒程度になる
- ◆巨 峰で 軸長6.0cmにすると 45粒程度になる
- ◆藤 稔で 軸長5.5cmにすると 35粒程度になる



〈予備摘粒後の房〉

- ③内向きの果粒を取り除き、併せて花カスも落とす。
- ④省力化のため着粒過多や房型の悪い果房は予備摘粒と合わせ摘房する。
- ⑤予備摘粒で最終的な果粒数に制限してもよい。

## 2. 果房の整形と第2回目ジベレリン処理

- ①第2回目ジベレリン処理前の房の整形として、上部支梗の切り下げまたは房尻の切りつめを行う。

- ◆ピオーネ・藤稔で 軸長 6.5cm
  - ◆巨 峰 で 軸長 7.0cm
- これ以上の長さには絶対にしない

- ②第2回目ジベレリン処理は、第1回目処理から10日前後を目安に行う。  
処理濃度は、ピオーネ・巨峰・藤稔ともに25ppm(2リットルに2錠)とする。  
再処理防止のために早朝から午前中に行い、降雨が予想される場合は、カサかけを行う。

## 3. 摘 房

摘房は、結果枝(新梢)に1房とし、結実状況の良否がわかり次第行う(満開10日頃から行い、第2回目ジベレリン処理直後には仕上げ摘房を終了する)。

## 4. 収量目標

品 種	10a当り 収量目標	平均 果房重	着 房 数		
			10a当り	3.3㎡当り	7尺5寸間当り
巨 峰	1.4t	500g	2,800房	8～9房	12～14房
ピオーネ・藤稔	1.5～1.6t	550g	2,700～2,900房	9～10房	13～15房

## 5. 新梢管理

- ①新梢が伸びて棚が暗い場合は、先端以外の副梢を1～2枚程度残して摘心する。
- ②棚面で部分的に暗い場合は、新梢の誘引の見直しや極端に強い新梢の芽かきを行い、棚面の明るさを均一にする。
- ③徒長的な新梢は摘心を行う。

## 6. 晩腐病対策

晩腐病対策として、小豆大の薬剤防除の徹底と早めのカサかけ・袋かけを行う。

## 7. 摘粒(仕上げ)口

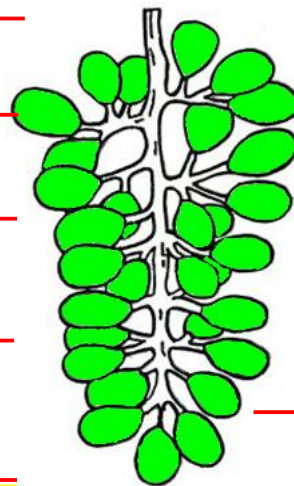
- ①上部支梗には軸を包むように、上向き果粒をやや多めに残す。
- ②房尻を摘んだ房の場合は、房尻にやや多めに果粒を残す。
- ③残す果粒にキズをつけないように気をつける。□
- ④小果梗のツノは残さず、きれいに元から切除する。
- ⑤小果梗が太く、果托が大きい果粒を中心に残す。

### 〈仕上げ摘粒後の房〉

	藤稔	ピオーネ	巨峰
	4粒×2段	4粒×3段	4粒×3段
	3粒×3段	3粒×3段	3粒×3段
	2粒×5段	2粒×4段	2粒×6段
	1粒×3段	1粒×3段	1粒×3段
<b>果粒数</b>	<b>28~30粒</b>	<b>32粒</b>	<b>35~40粒</b>

**目標果房重**

- ◆巨 峰・・・500g
- ◆ピオーネ・藤稔・・・550g



**軸長**

巨 峰	7cm
ピオーネ	6.5cm
藤 稔	6.5cm

## 8. 日焼け防止対策口

特に日当たりの良い場所は、日焼けとなりやすいため、クラフトカサをかける。  
なお、クラフトカサを取る時期 は、果粒軟化期(ベレーゾン期)以降とする。

安全・安心な農産物の生産に心がけましょう！

★農薬使用基準の厳守

★農薬飛散の防止

★防除日誌の記帳